



# 三角パートナーシップ・プログラム (TPP)

## ファクトシート

### 概要

国連は、2014 年に開催された第 1 回 PKO サミットの成果を受け、国連平和維持活動 (PKO) 要員への訓練を通じ、PKO をより効果的に行うことを目指し、2015 年に東アフリカで三角パートナーシップ・プロジェクトを開始した。①PKO 要員派遣国、②支援国、③国連の三者が共同で取り組む、国連の PKO 能力構築事業である同プロジェクトは、その後、事業内容の充実及び実施対象の拡大に伴い、「三角パートナーシップ・プログラム (TPP)」に発展した。現在、TPP では、工兵(施設)、医療、情報通信 (C4ISR\*)の三つの分野での PKO 要員に対する訓練プロジェクトのほか、PKO ミッションでの医療環境改善に対応するための遠隔医療プロジェクトを実施中である。2024 年現在、本プログラムは PKO だけでなく、アフリカ連合 (AU) 平和支援活動 (PSO) にも関与するよう、その範囲を拡大している。

### 三角パートナーシップ・プログラム







※ C4ISR: 指揮・統制・通信・コンピューター (C4)・情報・監視・偵察 (ISR)

### 目的

TPP は、訓練や PKO の活動支援を通じ、工兵(施設)・医療・C4ISR 分野に関する PKO 要員の能力を強化することを目的としている。訓練を受けた PKO 要員が実際にミッションに派遣されることで、質が高く効果的な PKO 及び PSO を実施することができる。また、遠隔医療システムのような、より良い活動支援に必要な枠組みの提供も行っている。こうして、TPP は「PKO のための行動 (A4P)」や「A4P プラス」に寄与している。

### 訓練及び活動支援の特徴

-  **部隊の早期展開:** PKO 及び PSO ミッションへの部隊の早期展開を支援するため、十分な訓練を受け能力を備えた要員を育成・確保。PKO 要員派遣国の PKO 即応能力登録制度 (PCRS) への登録レベルの引き上げにも貢献。
-  **多様なニーズに答える柔軟性:** アフリカ、アジア太平洋及び南米で、支援国や受入国と協力した訓練を実施。
- 長期的な能力の強化:** PKO 要員派遣国が自ら必要な訓練を実施できるよう、教官養成 (TOT) コースを提供し、地域及び各国国内における教育訓練の中核となる教官の育成に寄与。
-  **分野を横断した訓練ニーズ:** 分野を横断した訓練を通じ、新たな能力ニーズに確実に対応。例えば、国連地雷対策サービス部 (UNMAS) による爆発物危険認識訓練 (EHAT) と連携した工兵(施設)訓練などを実施。
-  **PKO における新たな能力ギャップ:** 引き続きステークホルダーと連携して、環境管理や即席爆発装置対処 (C-IED) といった PKO における新たな能力ギャップを特定し、TPP 訓練を通じて対応。
- 遠隔医療ネットワーク:** 遠隔医療システムを強化し、PKO ミッション内の様々なレベルの医療施設をネットワーク化、また一部のミッションと加盟国の病院間のシステムを構築し外部専門家による医療支援を提供 (中央アフリカ共和国 (MINUSCA)、南スーダン (UNMISS)、ゴラン高原 (UNDOF)、ソマリア (UNSO)、リビア (UNSMIL) 及びアビエイ (UNISFA); これまでにマリ (MINUSMA) 及びコンゴ民主共和国 (MONUSCO) でも試験的に実施)。

### プログラムの効果

#### PKO 要員派遣国 (TCC)



自国単独では実施が困難な専門性の高い訓練を受けることができ、任務遂行に必要な高い能力を保持した要員及び部隊の派遣が可能。また、教官養成コースを修了した要員を中核として、自国で最新のカリキュラム、教材を活用した訓練の実施が可能。

#### 支援国



TPP の各種訓練等への専門家や教官の派遣、教育訓練施設の提供、機材 (※二国間供与)、財政支援等を通じて、任務遂行、PKO 活動での安全性確保、PKO 活動の質的向上等、PKO ミッションへの貢献が可能。また、PKO 要員派遣国の要員及び部隊の育成に協力することで、PKO 要員派遣国とパートナーシップ醸成の機会を獲得。

#### 国連



工兵(施設)・医療・C4ISR 分野において、質の高い要員及び部隊の確保が可能。緊急の医療ニーズや、より高いレベルのケアによる専門的支援に迅速に対応する能力も向上。「A4P」や「A4P プラス」に寄与。PSO への貢献を通じた AU とのパートナーシップの強化。

### 分野横断的効果



- 国連内外の専門家と連携し、工兵(施設)・医療・C4ISR 分野の訓練を標準化。
- 複雑な PKO ミッション環境下での効率的な部隊展開を支援。
- 現在実施中の分野に限定されず、PKO が抱える諸課題の解決にも応用できる可能性。
- 国連の標準的な運用要求に沿って PKO 要員のパフォーマンスを向上。

### PKO 要員の安全



- 遠隔地における適切かつタイムリーな医療の提供で、不必要な患者後送を低減。
- PKO ミッションでの医療アクセスを改善。医療施設間でより多くの専門家が協議 (協同的医療ケア) できる仕組みを確立。
- 専門医のいない場所での医療支援が可能。





TPP 訓練・活動支援の概要

工兵(施設)分野の訓練

- 2015 年以降、アフリカ、アジア・太平洋地域地域の PKO 要員派遣国から 970 人の工兵要員が対面式訓練又はリモート訓練に参加。
- 日本、オーストラリア、韓国及びスイスが財政支援を実施。
- 5 か国(日本、韓国、スイス、ブラジル、モロッコ)が支援国として教官を派遣。アフリカの PKO 派遣国 4 か国(ウガンダ、ガーナ、ケニア、ルワンダ)も様々な重機(HEE)操作コースを支える補助教官を派遣。
- ウガンダ、ケニア、モロッコ、ルワンダ、インドネシア、カンボジア、ベトナム、ブラジルが、訓練ホスト国として訓練施設や装備品を提供し、訓練に必要な業務を支援。
- 韓国は TPP の訓練に使用する機材を訓練ホスト国に譲渡。
- 現在、6 つの対面式コース(HEE 操作(初級、中級、教官養成(TOT))、HEE 整備、水平工兵作業(HEC)、施設工程管理(EPM))及び1つのリモートコース(作業工程管理(CPM))を提供。
- 修了生は既に MINUSCA、MINUSMA、MONUSCO、レバノン(UNIFIL)、UNISFA、UNMISS 及びソマリア(AMISOM、ATMIS)へ派遣され活躍。



医療分野の訓練

- 2023 年以降、ミッション(MONUSCO、UNISFA、UNMISS)及び PKO 要員派遣国から派遣された 194 人の非医療従事者である PKO 要員が、ウガンダの国連エンテベ地域支援センター(RSCE)で実施された野外衛生救護補助員コース(FMAC)に参加。
- FMAC 教官養成コース(TOT)は、バーチャル・ワークショップと対面式訓練で構成され、これまでに 43 人が TOT の全カリキュラムを修了。
- FMAC は、日本、イスラエル、インド、韓国、国連平和発展信託基金(UNPDF)(中国)から財政支援を受けている。



情報通信(C4ISR)分野の訓練(国連情報通信学校(UNCAP))

- 2016 年以降、138 か国、21,590 人の軍・警察関係者が、RSCE 等における対面式訓練、インミッション訓練もしくはオンラインコースに参加。このうち、12,330 人が対面式訓練を、9,172 人がオンライン(自習型)訓練を、88 人がバーチャル・インストラクター主導訓練(VILT)を受けた。
- 12 回の女性アウトリーチコース(WOC)が実施され、アフリカ、アジア、欧州、南北アメリカから 74 か国、288 人(軍人 198 人、警察官 90 人)の女性将校が参加。このうち 36 人の修了生が PKO に派遣されている。
- 2021 年、小型無人航空システム(M-UAS)コースを開始し、2022 年からは M-UAS TOT コースも開始。これまでに M-UAS リモートパイロットコース(RPC)を 6 回、M-UAS TOT コースを 6 回実施。また、移動訓練チーム(MTT)が MINUSCA、MONUSCO、UNSOS をはじめとするミッションやその他の国連諸機関で M-UAS コースを実施。これらを通じて、UNCAP は 47 か国、106 人のオペレーター(うち女性 8 人)と 50 人のトレーナー(うち女性 2 人)を養成。
- 日本、インド、カナダ、デンマークが財政支援、ウガンダ、ドイツ、フランス、NATO 情報通信システム学校(NCIA)が、教官の派遣、専門知識、助言やロジスティックスにおける技術支援で協力。



新たな重点分野

- AU に対する訓練
  - TPP は国連 PKO だけでなく、AU PSO に対しても TCC の能力構築を実施。
  - 2024 年 3 月、TPP を通じた AU との協力強化を議題とした TPP-AU ワークショップを開催。
  - 日本、韓国、ポルトガルが AU PSO の TCC に対する訓練への財政支援を実施。
- 即席爆発装置対処(C-IED)訓練
  - TPP は UNMAS と協力し、C-IED 訓練を実施。
  - 2023 年 10 月、ケニアで TPP C-IED ワークショップを開催し、TPP の枠組みにおける C-IED 訓練について議論。
  - 2024 年 6 月、分野横断訓練の一環として、IED による脅威への対処に焦点を当てた爆発物危険認識訓練(EHAT)を、HEE 操作コースと連携して、ケニアで実施。
  - 2024 年後半にカンボジアで実施される分野横断訓練に備え、同年 6 月に韓国で EHAT TOT を実施。
  - 日本が C-IED 訓練への財政支援を実施。
- 環境マネジメント訓練
  - 2021 年、平和活動における UN 環境マネジメントのパイロットコースをリモートで実施。
  - TPP は、平和維持・平和支援活動における環境配慮の主流化を目指し、さらなる活動分野を模索。
  - 日本とドイツが本訓練の財政支援を実施。

遠隔医療プロジェクト

- 遠隔医療プロジェクトは、革新的なデジタル技術を活用して、PKO 要員の医療へのアクセスを改善し、質を高めることを目的として開始。
- 現在、遠隔医療プロジェクトは MINUSCA、UNMISS、UNDOF、UNSOS、UNISFA、UNSMIL の合計 6 つの国連 PKO ミッション(20 か所)で運用されている。また、過去に MINUSMA と MONUSCO にも導入されていた。
- 遠隔医療プロジェクトは以下の 3 つの部分からなる。(1) 高次の医療施設の専門家と、遠隔地で活動するミッション中の PKO 要員を結びつけ、受傷地点や患者搬送中にリアルタイムの遠隔医療支援を提供。また、専門家の意見や臨床的判断の支援のために、異なる医療レベルにいる医療従事者間の協力を促進。(2) ミッション内の遠隔医療範囲を拡大し、ミッション外からの遠隔医療支援(加盟国の病院との遠隔医療連携)を追加。(3) 遠隔地の最前線で活躍する外科医をサポートするため、リアルタイムの遠隔医療が可能な手術室の現場への導入。
  - 遠隔医療プロジェクトは、国連 2.0-変革の五重奏部門で 2023 年国連事務総長賞を受賞。同賞は、先進的な文化により活性化され、21 世紀の最先端技術により強化された、現代的な国連ファミリーという事務総長のビジョンを強調し、国連による人々と地球への支援をさらに加速していくプロジェクトを表彰するもの。
- これまでに日本、イスラエル、オーストラリア、韓国、ポルトガル、UNPDF(中国)が財政支援を実施。



三角パートナーシップへの支援

- 150 か国を超える加盟国は、「国連平和維持活動に関する共同コミットメント宣言」を支持し、三角パートナーシップを含む革新的なアプローチを通じ、PKO 要員の準備、訓練、装備を強化することを約束。
- TPP を持続可能な事業とするため、国連は加盟国からの財政支援や教官派遣、工兵(施設)、医療、C4ISR 関連の装備の提供等、あらゆる面での支援を歓迎する。

連絡先

- プログラムチーム: 伊東孝一 ([itot@un.org](mailto:itot@un.org))、Ms. Amy Weesner ([weesner@un.org](mailto:weesner@un.org))
- 情報通信技術局(OICT)/ UNCAP: Mr. David Brazier ([brazierd@un.org](mailto:brazierd@un.org))、Ms. Florence Keter ([keterf@un.org](mailto:keterf@un.org))